

変化しながら受け継ぐ

静岡市内中学校

西ヶ谷さん

「これが未来の服なのか。」

家族で訪れた大阪・関西万博で私は思わず呟きました。パビリオンには各国の歴史、文化、そしてこれから私たちが作っていく未来が紹介されました。一〇チップを使った服が当たり前になつたら、病気を未然に防ぐことや、自分で気づかない体調の変化もいち早く分かるかもしれません。表裏や前後をなくして衣服のバリアフリーが実現した服がこれからたくさん流通していくかもしない。便利で快適、そしてスマートな暮らしに合わせてファッションも変化していくのかな。

私はこれから未来の生活を想像しました。

トレンドはすばやく変化をしていくので、大量のエネルギーを使って作りれた服も、すぐには捨てられてしまいます。服のライフサイクルが短くなることで、今度は廃棄するためにも環境負荷が生じます。日本国内で「ヨリヒ出される衣服は年間四七万トンで、一日あたりにすると大型トラック一一〇台分の服が焼却・埋め立てられているのです。

ファッションが引き起こす環境問題に私たちができることはないかと考えていた時、とても面白に出来事がありました。

近所に住むお年寄りが私の家を訪ね、

「これ、あなたたち家族じゃないかしら。」

見せられたのは母が子どもだった頃の家族写真でした。今まで渡されることなくしまわっていたものが、家の整理で出てきて、届けてくれたのです。小さな母、今と全然違う大人の髪型やファッション、古ーノや価格の裏側には、労働問題や環境問題が隠れています。ファストファッションが引き起こす環境問題には、水とエネルギーの大量消費、水質汚染、処理しきれない廃棄物などが挙げられます。服を作る

と盛り上がる中、

ためにどれくらいの環境負荷がかかっているのかを調べたり、一着あたり二酸化炭素の排出量約二一五・五キロ、水消費量約二三〇〇コットルであることを知りました。

「かよひと待つて。」

母がスマホから写真を撮ると、私が1歳の時の写真が出てきました。元気いっぱいで、今みんなで笑った古い写真で、母が着ていた子供服を、私が着て公園で遊んでいたのです。

なぜそのようになったかといふと、それは、私の家の「おががり」という習慣にあります。私の家では、古くものでも大切なことを大切に、歴史を継いで今も使つたら、着たりする習慣があります。私が使つているピアノは、祖母が子どもだった頃に買つてもらつたもので、祖母だけでなく母が使い、お嫁入りと一緒にピアノも引っ越しをしたのです。

今私がとても楽しみにしてるのは、祖母の家に大切にしまつてある成人式の振袖を着ることです。そのことを美容師さんに話をしたら、振袖があることが幸せだとこういいました。そして着物は自分らしく着ねじりで生まれ変わることを教えてくれました。同じ着物でも髪型のアレンジの仕方、髪飾り、帯紐、帯の結び方を変えることで、伝統を受け継ぎながら、現代でも十分にその感覚を活かすことができる。といふことでした。私はどんな風に成人の日を迎えるのだか。今はまだわからない楽しみがあります。そしてこの着物をいつたいにつまんで受け継ぐことかであるのだか。そういう想ひと、長い家族の歴史の中

に私自身の存在もしっかりと刻まれていくように思つました。

私の家の「おががり」の習慣はかよひとゆべ、やつてたゞかの思い出がつまっています。服を大切に長く着ることや、直して着る、付け加えて着ることで、衣服の寿命がのびます。また廃棄するものが減つたり、買ひ替えるペースが減ることで、環境への影響を軽減できます。家庭以外でも、自治体などにみなみの服のリサイクルやリユースへの取り組みもあります。持続可能な社会に向かたむくとも新しいライフスタイルなのかもしません。

私はこの夏、万博に行つて少し先の未来を見た気持ちになりました。そして未来はキラキラしてて、可塑性で溢れてこねじりとを教えてもらいました。私が大人になるまでの間に、ファッションのトレンドは変化をし続けていくのだと思います。今までのものと、これから自分が大切に、自分らしく繋いでいく、それが私の考える未来へのチャンジファッショんです。